知ってもらう安心

前川　良太

これから年度末にかけて、小学校就学を控えるぞう組さんでは引継ぎ資料の作成を行います。つばさの引継ぎ資料は、担任がそれぞれの子どもの自分で表現できないけれど知っておいてほしいことを、“代弁”する気持ちで作成します。それも学校の先生もいいところ探しは上手にしてくれるので、特に苦手なことや配慮の必要なことに絞って記載します。なので「友達とのやり取りで自分本位になって切り替えに時間がかかる」や「一度に複数のことは聞き取れない」などズバッと本質を突くような内容が書かれてあります。そしてその引継ぎの内容は各家庭と確認することに留まらず、クラス懇談の場でみんなで話し合われます。一見するとそれなりの個人情報がオープンな場で話し合われるのですが、これまでの保護者同士の関係性や懇談会での積み重ねが、そんな懇談会の根底にあります。そしてこれから小学校へ就学する子どもたちのことを、「こんなことあるかも知れへんから、道で見かけたら声掛けてやって。」と、地域の大人である保護者のみんなが知っている安心感に親子が包まれて、ここを巣立っていけることを目指しています。

先月、そんな5歳児のクラス懇談会に私も参加しました。その回は小学校に向けての不安なことやわからないことを小学校で働く保護者に人や、お兄ちゃんお姉ちゃんで就学を体験している先輩保護者に聞いてみようというテーマでした。私自身も就学前の子を持つ親として、半ば保護者の気持ちでそこに参加させてもらいました。中心になってみんなの疑問や不安に答えてくれたのが森田さんのお母さんでしたが、いろんなことに答えてくれながら、準備も大事だけど、子どもがうまくいかなかった時にどんと構えて一緒に考えてやれるような親の心構えも同時に伝えてくれて、なんだかホッとした気持ちになりました。そしてまたそんな懇談会の中でも「うちの子支援学級に行くんやけど…」「じゃあ〇〇はこんなところ配慮してと頼むといいよ」なんて会話が参加者同士で当たり前のように交わされるのでした。単に発達に凸凹がある子たちに理解があるということではなく、支援学級を選んだ子に限らずそれぞれの子の課題がどこにあるのかということが、そもそも親同士の共通理解としてあるからこその会話だったことに、私は胸を打たれていました。
そんな保護者同士だからこそ、きっとこの先も支え合いながら過ごしていけるなと心からそう思いました。

子育ては一人ではできません。時に親子ではうまく解決できないこともあります。そんな時は他人の出番です。就学やこの先たくさんの心配事を、ずっと親が後をついて歩くわけにはいきません。だからこそ、保育園だって同じですが、他人に託し、地域に託しながらコミュニティの中で子育てしていくのです。つばさっこ達はみんな一人残らず地域の子どもたちです。その地域を作る私たち大人が、まずは互いにしっかり手と手を握り合うことが何よりも大事なことです。個人情報だからとなんでも内輪で隠してしまいがちな今の時代ですが、安心の輪の中で一人の困りごともみんなの困りごとにしていけるような関係性でありたいと思っています。どうかこれからも懇談会やつばさでの大人同士の関係が安心できるような日々を過ごしていけるといいなと思います。